

○第8次栽培漁業基本計画に関連する道及び道総研の各種事業について

魚種名	区分	事業名	事業の概要等	R4	R5
ヒラメ	道総研	栽培漁業技術開発調査 (持続的なヒラメ栽培漁業成立に向けた調査研究 R4~R8)	耳石を用いた放流ヒラメの新たな判別手法を開発し、市場調査手法の再検討により精度を向上することにより、ヒラメ放流効果と再生産効果を再評価し、持続的な栽培漁業成立条件を明らかにする。	○	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (マツカワ・ヒラメウイルス性神経壊死症の早期診断技術の開発及びサーベイランス R4~R8)	道内マツカワ・ヒラメの種苗生産・中間育成におけるVNNの持続的防疫を達成するため、稚魚の早期診断技術を開発し、仔稚魚・親魚検査によりVNNウイルス感染の監視を行う。	○	○
	道総研	ヒラメアクアレオウイルス感染症の親魚検査技術の改良に関する研究(R3~R5)	親魚検査の精度向上、低コスト化、作業効率化を図るため、中和試験法の最適条件を明らかにし、実用性の確認のため、抗アクアレオウイルス抗体の保有検査を行う。	○	○
マツカワ	道	マツカワ栽培漁業実証事業費	マツカワの放流効果を実証するため、種苗生産・放流に経費に対する助成及び効果調査の実施(事業主体:北海道、北海道栽培漁業振興公社)	○	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査(H14~)	えりも以東海域におけるマツカワの年齢別漁獲尾数と人工種苗混獲率を把握する。	○	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (放流基礎調査事業 R4~R8)	マツカワ栽培漁業を持続可能とするため、適正な性比や形態を有する健苗の生産、生産コストの低減、放流サイズの小型化に対応した技術改良を行う。	○	○
	道総研	マツカワの種苗生産施設にみられた新興感染症の診断及び治療・予防技術の開発(R3~R5)	ウイルス様微生物や <i>Pseudomonas anguilliseptica</i> 感染症によるマツカワ種苗の死亡被害を防ぐため、両微生物について診断技術の検討・開発、疫学調査、予防・治療法の予備試験を行う。	○	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (放流基礎調査事業 H18~)	えりも以西太平洋海域で放流したマツカワ人工種苗の放流効果の波及範囲を明らかにするとともに経済効果を算定する。また、放流適地や適正サイズ等の放流技術を開発する。	○	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (マツカワ・ヒラメウイルス性神経壊死症の早期診断技術の開発及びサーベイランス R4~R8)	道内マツカワ・ヒラメの種苗生産・中間育成におけるVNNの持続的防疫を達成するため、稚魚の早期診断技術を開発し、仔稚魚・親魚検査によりVNNウイルス感染の監視を行う。	○	○
ニシン (日本海北部)	道総研	石狩湾系群ニシンの漁況予測調査	石狩湾系群ニシンの適切な資源管理のために必要な調査の実施	○	○
	道総研	漁業生物の資源・生態調査研究(H1~)	留萌・宗谷管内における生物測定、統計資料の収集。	○	○
ニシン (日本海南部)	道	日本海ニシン栽培漁業定着事業費	種苗生産に対する支援及び資源造成の可能性調査等の実施(事業主体:北海道、後志南部地域ニシン資源対策協議会、ひやま地域ニシン復興対策協議会)	○	○
	道総研	日本海南部ニシン栽培漁業調査研究(R4~R8)	環境調査(水温変動、餌料生物)を行い、水温・体サイズと種苗の活力との関連性を把握する。また、中間育成によって種苗性を向上させる技術開発を行うとともに、回帰と漁獲魚の系群の確認を行う。	○	○
	道総研	後志南部海域産ニシン親魚を使用した資源増大事業(R2~R4)	中間育成による放流手法の改善効果について検討する。また、放流ニシンの回帰と漁獲魚の系群の確認を行う。	○	-
ニシン (湖沼性)	道総研	ニシン道東湖沼性集団資源モニタリング体制の構築(R3~R4)	変動が大きい地域資源の漁獲物特性を的確に把握し、短期的漁況予測を実現可能な調査体制を確立する。また、既存データから資源解析を行い、資源利用状況を把握する。	○	-
	道総研	海底画像を利用したホタテガイ放流量の最適化に関する研究(R5~R8)	地まきホタテガイ漁業の生産安定化に向けて、海底画像データ(底質、ホタテ分布、外敵生物)と漁業資源情報を総合的に解析し、漁場の健全性・生産性の評価指標を構築するとともに、漁場特性に合わせた最適な種苗放流数や合理的な漁場管理手法を明らかにする。	-	○
ホタテガイ	道総研	地まき漁場におけるヒトデ類の摂餌生態の解明(R5)	地まきホタテガイ漁業においてヒトデ類による被食被害推定を行ったり、駆除の実施範囲を検討・判断したりする上での基礎資料として活用される。	-	○
	道総研	種間競争によるヒトデ類の捕食抑制メカニズムの解明(R3~R6)	ヒトデ二種間におけるホタテ捕食圧の抑制効果のメカニズムを行動生態学的観点から解明し、ヒトデ類の競合関係がホタテガイの生存戦略に与える動的变化とその関係性を解明することで、捕食被害を高精度に推定する。	-	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (栽培漁業地域展開事業 H30~)	珪藻の単離培養技術を活用して、アワビの初期餌料候補を探索するとともに、この拡大培養技術を開発する。	○	○
エゾバフンウニ	道総研	栽培漁業技術開発調査(R4~R8) エゾバフンウニ養殖用大型種苗の育成	稚ウニを効率的に大型化する飼育環境条件および成熟制御条件を明らかにする。	○	○
	道総研	多段式育成手法を活用した道産エゾバフンウニの効率的な種苗生産体系の開発(R2~R4)	多段式トレイを利用して、省力的かつ低コストであるエゾバフンウニ種苗生産システムを開発する。	○	-
	道総研	赤潮によるウニの大量へい死の実態と資源回復過程の把握(R5~R7)	赤潮被害海域のウニの分布状況等を調査することにより、赤潮によるウニの大量へい死の実態を把握し、へい死後の漁場環境の変化や人工種苗放流による資源回復効果を明らかにする。	-	○
キタムラサキウニ	道総研	漁業生物の資源・生態調査研究(H1~)	後志管内におけるキタムラサキウニ発生状況、生息環境の調査、情報収集。	○	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (栽培漁業地域展開事業 H30~)	漁業現場における課題対応、技術支援	○	○
マナマコ	道総研	栽培漁業技術開発調査 (栽培漁業地域展開事業 H30~)	珪藻の単離培養技術を活用して、ナマコの変態促進を探索するとともに、この拡大培養技術を開発する。	○	○
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (マナマコ人工種苗放流技術マニュアル化試験 H30~R4)	これまでに胆振・檜山管内で放流された種苗の成長、生存年数ならびに漁獲回収率等に基づき、放流に適したサイズ、時期、場所等を明らかにして、放流技術マニュアルを作成する。	○	-
	道総研	栽培漁業技術開発調査 (マナマコ大型種苗効率的生産技術の開発 R4~R8)	産卵期の遅い北海道日本海南部産の親から生産されるマナマコ種苗を効率的に30mm以上の大型種苗にするための基本的知見を得る。	○	○
	道総研	マナマコ人工種苗放流による資源構築の検討(R5~R7)	新たな多型的DNAマーカーを開発して、これまで3海域で行ってきた放流効果(1次効果)調査回収個体の放流親および放流種苗との血縁度を元に、放流種苗の残り残し個体を親とする再生産個体の状況を明らかにするとともに、1次効果の調査を継続し、寿命・成長・投資効率などを明らかにする。	-	○
	道総研	マナマコに食害を及ぼすシオダマリミジンコの駆除に関する研究 一般共同研究(R4~R6)	種苗生産で問題となるシオダマリミジンコのマナマコへの食害による減耗を抑制するために、マナマコの生残に害を及ぼさない物質を使った駆除方法を明らかにして、マナマコの安定生産に寄与することを目的とする。	○	○
アサリ	道総研	栽培漁業技術開発調査 (現場対応型二枚貝種苗生産簡易キットの開発 R4~R8)	一般化した飼育キットを開発する。	○	○
バカガイ	道総研	栽培漁業技術開発調査 (現場対応型二枚貝種苗生産簡易キットの開発 R4~R8)	一般化した飼育キットを開発する。	○	○
イワガキ	道総研	栽培漁業技術開発調査 (現場対応型二枚貝種苗生産簡易キットの開発 R4~R8)	一般化した飼育キットを開発する。	○	○
ムール貝 (ムラサキガイ)	道総研	栽培漁業技術開発調査 (栽培漁業地域展開事業 H30~)	効果的な採苗方法の検討などムール貝養殖技術の構築に係る試験研究と技術普及支援を行う。	○	○

養殖推進種	ホタテガイ	道総研	日本海養殖ホタテガイ生産安定化試験(R3~R5)	日本海で見られるホタテガイ半成貝の斃死と病変との関連を調べる。また、近年、石狩湾でも増加しているコーロツバザラボヤの産卵時期や付着時期を明らかにする。	○	○
		道総研	環境情報を活用した養殖ホタテガイ稚貝の順応的管理方法の構築(R2~4)	養殖ホタテガイの生産安定化のため、斃死に関わる環境要因を抽出し、効率的な観測体制を確立するとともに、稚貝育成試験を実施し、環境情報を活用したホタテガイ稚貝の順応的管理手法を構築する。	-	-
		道総研	深刻化する養殖ホタテガイ大量死発生機序の総合理解(R5~R7)	稚貝が受ける各ストレスの累積によって生じる内的・外的な応答を網羅的に分析する。一連の成育不良の発生機序を解明し、最適な稚貝の管理条件を明らかにする。	-	○
		道総研	噴火湾養殖ホタテガイ生産安定化試験(R3~R5)	噴火湾ホタテガイ養殖の生産安定化のため、夏季沿岸環境調査を行い、生産者に有益な情報を漁協及び関係機関に情報提供する。	○	○
		道総研	外海におけるホタテガイ稚貝生産技術改善調査(R3~R5)	水温ストレスや籠の揺れによる貝の動揺の定量化など、全道の稚貝生産安定化に資する技術開発を行う。	○	○
		道総研	日本海養殖ホタテガイ生産安定化試験(R3~R5)	斃死に繋がる要因の探索とホタテ養殖環境の評価技術の開発に向け、留萌管内の養殖ホタテガイについて、生産状況と養殖環境のモニタリングを行う。	○	○
	エゾアワビ	道総研	栽培漁業技術開発調査(栽培漁業地域展開事業 H30~)	珪藻の単離培養技術を活用して、アワビの初期餌料候補を探索するとともに、この拡大培養技術を開発する。	○	○
	マガキ	道総研	「ホタテガイ貝殻」を用いたマガキシングルシード種苗生産技術開発	産業廃棄物であるホタテガイ貝殻の破砕物を利用したマガキ養殖用シングルシード種苗の生産技術を検討し、天然採苗に適した時期、場所、採苗器の構造を明らかにする他、人工採苗における貝殻破砕物の敷設密度およびマガキ幼生の収容密度の最適な組み合わせを解明する。	○	(予定)
	エゾパフウニ	道総研	エゾパフウニ養殖用大型種苗の育成(R4~R8)	殻の成長に適した飼育環境および成熟を抑制する条件を明らかにする。	○	○
	キタムラサキウニ	道総研	秋から冬に行うキタムラサキウニの養殖技術開発(R4~R6)	秋から冬に行う道産ウニ養殖漁業の確立に不可欠な餌料コスト低減法と養殖ウニの特徴に合わせた保存・加工方法を開発する。	○	○
		道総研	光周期を利用して成熟を抑制し生産性を飛躍させる魚介類養殖手法の開発(R4~R6)	光周期調節によりウニ生殖巣の品質が維持できる期間をさらに延長可能な育成手法を検討する。また、餌料の安定確保のために、配合飼料の開発に取り組み、従来の出荷可能期間を拡張する養殖技術を開発する。	○	○
	コンブ類	道総研	コンブ養殖技術研究(R4~R8)	マコンブ促成養殖に必要な母藻を早期かつ安定的に確保する成熟誘導について、低コスト化・効率化を図りつつ、漁協の種苗センターで利用可能な実用技術として確立させる。	○	○
		道総研	道産ガゴメの生産性を向上する促成養殖生産システムの開発(R3~6)	道産ガゴメの促成養殖生産技術を開発し、天然物に匹敵する品質の製品を安定供給する生産体系を構築する。	○	○
		道総研	リシリコンブ養殖の安定生産に貢献する種コンブの育成環境についての技術開発(R2~R4)	養殖工程において適切なスリ作業の時期と海洋環境の対応関係を明らかにする。秋に確実に再生長する種コンブの形態を数値で判別する指標を求める。	○	-
	マナモコ	道	新たな養殖業推進事業費	天然資源に依存しない計画的・安定的な生産体制の構築を図るため、本道に適した養殖の展開方向について検討するとともに、新たな養殖手法を検証する。	○	○
		道総研	マナモコの行動特性を利用した低利用港湾での粗放的養殖技術の検討(R5~R7)	マナモコの種苗や小型個体および産卵親マナモコを放流し追跡調査することにより、それぞれの行動特性を調べ、最適な割石の設置数および港湾内全体の収容力を明らかにして、低利用港湾を粗放的養殖場として活用する技術を開発する。	-	○
道総研		道産マナモコの管理型養殖技術に関する基礎研究(R5~R8)	飼育下におけるマナモコの摂餌生態や成長特性を解明するとともに、餌料や飼育密度、水温、給餌方法等と成長との関係を明らかにする。さらに本種の摂餌特性を考慮した他の水産生物との混合飼育管理やかこ養殖における飼育成績データを取得し、養殖管理に関する基盤技術を構築する。	-	○	
技術開発推進種	シシャモ	道総研	栽培漁業技術開発調査(シシャモ増殖用種苗生産及び親魚養成に向けた飼育技術の開発 R4~R8)	放流用種苗生産、ふ化放流事業のための親魚養成、及び養殖(2年で30g)に向けたシシャモ飼育の技術を確立する。	○	○
	アカガイ類	道総研	アカガイ属二枚貝の増養殖に向けた基礎調査(R4~R8)	海洋の高水温化に対処するために青森県以南で種苗生産や養殖が行われているアカガイ属について、本道における増養殖の可能性を検討するため、親貝の探索や種苗生産に関する試験を行う。	○	○
	エゾイシカゲガイ	道総研	養殖用種苗生産技術開発に向けた道産エゾイシカゲガイの生物特性解明(R3~R5)	親貝の成熟や幼生飼育における好適水温・密度、稚貝の着底様式などの生物特性を明らかにする。	○	○